



## 新通市場

古井 浩二 (西創成まちづくりセンター 所長) 猪熊 梨恵 (札幌オドオリ大学 学長) 田中 トミ子 (田中青果店) 桜本 昭一郎 (さくらもと商店)

全盛期には買い物客でごった返した記憶を残しながら、今はゆったりと時間が流れる新通市場。この空気に惹かれて、ぽつぽつと人が集まり始める未来を感じさせる、ある日のトークをご紹介します。

—猪熊さんは、新通市場とちょっとしたご縁があるそうですが……

猪熊：はい。私は札幌市立高等専門学校出身なのですが、10年ほど前に先輩方が新通市場でイベントをしているんです。そのときのお話を聞きたいなと思って。

田中：うちの社長（田中満さん）が若い子を応援する人だから、お店の隣のスペースを学生さんに開放して、好きなことをしていいよと。今でも、壁なんかは当時塗った色のまま残っていますよ。最終日はみんなにカレーを作ってあげた記憶があります。

猪熊：そのときの先輩方が今30代になっていると活躍していて。この場所で、また何かできたら素敵だなと思っています。

—話は変わり、新通市場は札幌で2番目に古い市場と聞きました。

桜本：昔はこの辺一帯が、北海道拓殖銀行の社宅でした。社宅を社外の人にも貸すようになって、その人たちが商売を始めたのが新通市場の最初です。100年近く前のことですね。北海道で初めて歩行者天国を実施したのも、新通市場なんです。スタンプカードにポイントを貯めて、それをお客さんに還元するという試みも先駆けでした。

田中：ポイントが貯まると、温泉旅行に無料招待して。全盛期には大型バス5台を貸し切って、市場の方々とお客さんと一緒に行ききましたよね。そこでお芝居も披露して。社長が台本

を書いて役者を決めて、2ヶ月くらい練習して。お客さんから見ても、舞台上上がっているのが知人ばかりだから楽しいんですよ。「あれは豆腐屋さんだわ」とか、ずいぶん盛り上がりました。猪熊：その感覚って大家族みたいで憧れます。私もこの場所に通ったり住んだりして、長期的な時間を過ごしてみたい。

古井：営利目的の商売を、獲物を求めてさまよう動物に例えるなら、昔からある商店街は、地域に根を下ろした植物みたいなものだという言葉があって。地域の交流を前提としたコミュニティビジネスも始めているし、そういったこと何かお手伝いできれば。

桜本：僕は、実は人通りがなくてゆったりと時間が流れている、今の新通市場の雰囲気が好き。この中で、人とのふれあいを作っていければいいんじゃないのかな。

田中：高齢のお客さんと、毎食分作るのなかなか億劫だし、材料も余しがちでしょう？それで、うちでも総菜を作って置いているんです。八百屋だけど、魚屋さんでお魚を買ってきて煮物にしたり。自分ができる範囲のことで、お客さんに喜んでもらえるならと思って。

猪熊：今のお話は、いいヒントになりそうです。今年何かできるように頑張ります！

札幌オドオリ大学 <http://odori.univnet.jp/>



ここに掲載できなかった取材時のお話は、以下のアドレスで聞くことができます。  
[http://www.sora43.jp/sound/machi/vol\\_81.mp3](http://www.sora43.jp/sound/machi/vol_81.mp3)



## 南3条界限

佐々木 大輔 (グラフィックデザイナー)

松岡 修司 (祥瑞札幌)

五十嵐 光 (Bistro 2'eme Campagne)

老舗に加えて、ここ2年間で新しい飲食店が続々誕生している南3条界限で、複数の店舗やお客さんがメンバーの「南3条進展青年会」という団体が密かに活動中。その目的とは？

—南3条進展青年会はどのような団体ですか？

松岡：南3条にお店を出していたり、そこで活動したりしている人たちを中心にして、昨年できた団体です。この界限に新しい風を吹き込んで、活性化できればいいなと思いつつ、ゆるやかに活動しています。

五十嵐：最初に開催したイベントが「1500（イチゴーマル）企画」。飲み物と一品を各店が1500円で用意して、お客さんに参加店舗をはしごしてもらおうというもの。この後「真夜中の学校祭」と題して、夜の12時から始まるシークレットパーティーもしました。各店舗がブースを出してお客さんと呼んで。チケットには南3条進展青年会のブログアドレスが書いていて、来た人だけがブログも閲覧できるようにしたんです。

佐々木：検索してもブログは出てこないの、読みたいときは実際にお店に足を運んでアドレスを聞くしかないという（笑）。

—佐々木さんは、お客でありながらこの会の準会員ですが、南3条界限の魅力とは何でしょう？

佐々木：いいお店が多いこと、お店同士の仲がよいこと。僕は友達の家遊びに行く感覚で、いろいろなお店に行っています。そしてまた、そこで他の店の人に会う確率が高い（笑）。

松岡：営業終了時間が1時前後のお店が多いから、遅くまで営業している店に自然と集まってしまっ。みんな、ワンクッションおいてからでないとい帰れない人たちだよ（笑）。でも、

そうやって呑みながら話しているところで、企画が出てくる。お客さんも一緒になって「それやりましょう！」とかね。

五十嵐：南3条界限は飲食店激戦区だけど、いい店が集まっているから、お互いに切磋琢磨して質を高め合っている部分はありますね。

—今後の活動について教えてください。

佐々木：僕は個人的に、この会が中心となって、南3条通でお祭りができるといいなと思っています。

五十嵐：これからは、自分たちの世代がまちを盛り上げていかないと。南3条界限には、若い人が集まっている空気がある。若い世代がよいパワーを発散している熱っぽいところに、さらに人が集まって、この小さな界限から大きな動きを作っていければと思います。

松岡：南3条進展青年会にも飲食店だけが参加するのではなくて、この界限のオフィスやショップの人たち、そしてお客さんも一緒になって、楽しむことができるようにしていきたいですね。「南3条進展青年会」という言葉が合い言葉になって、南3条界限に集まる人たちの交流のきっかけになればうれしいです。ブログや今後のイベント、他の参加店舗についても、ぜひお店に足を運んで聞いて頂ければ。



ここに掲載できなかった取材時のお話は、以下のアドレスで聞くことができます。  
[http://www.sora43.jp/sound/machi/vol\\_80.mp3](http://www.sora43.jp/sound/machi/vol_80.mp3)